

Title	荊州の鐵補記
Sub Title	
Author	中島, 竊(Nakajima, Sho)
Publisher	三田史学会
Publication year	1929
Jtitle	史学 Vol.8, No.3 (1929. 11) ,p.164(486)- 164(486)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19291100-0164">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19291100-0164</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## 荊州の鐵補記

五車一得中、曾て荊州の金三品を論じて、其一品は鐵ならん事を知り、唯前後漢書の文に因り、此方面に古より鐵ありし事を云ひしかど、古書の記載に乏しければ、武昌の鐵も、何時頃よりの産出といふ事も知られざりしを遺憾とせしが、此頃某書の内に、陶弘景が刀劍錄を引て、夏禹子啓以庚戌八年、鑄一銅劍、長三尺九寸、啓子太康、歲在辛卯、山月春、鑄一銅劍、秦始皇以三年歲次丁巳、採北祗銅鑄二劍、吳王權以黃武五年、採武昌銅鐵、作千口劍萬口刀とありて、此に始て武昌の鐵を發見せり。但し夏后啓時代の事は、弘景如何にして傳へ知りしか、いさゝか覺束なけれど、弘景は六朝人にて、梁の武帝が大同二年に卒し、吳王孫權が黃武五年よりは、僅に三百年後に過ぎず。されば大なる誤傳は無かるべく、信ずるに足るべき者と思はる。一萬一千の刀劍を製したりとせば、大治と地名に残るも道理こそ、張之洞は博覽の人なれば、自然此に見及びしなるべし。自分架上に此書なし、目下原書を點檢するに及ばず、尙此外にも又發見の時ありやも知れ難けれど、此發見を喜び、先づ此に補記して、更に他日を待つ。